（公開学習Ⅰ）　　第１学年１組　音楽科学習指導案

授業者　桝田　祐子
小学校　音楽室

１　題材名　めざせ！たいこ名人　～龍神太鼓で雨をふらそう～

２　授業構成

（１） 教師と教材

本題材は，学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

> Ａ表現（２）楽曲の気分や音楽を特徴付けている要素を感じ取って，工夫して表現できるようにする。
> 　　イ　拍の流れやフレーズを感じ取って，演奏したり身体表現をしたりすること。
> （３）歌い方や楽器の演奏の仕方を身に付けるようにする。
> 　　イ　身近な楽器に親しみ，簡単なリズムや旋律を演奏すること。
> Ｂ鑑賞（１）音楽を聴いてそのよさや楽しさを感じ取るようにする。

木と牛皮で作られた和太鼓は，昔から祭礼や盆踊りなどを通して，豊作の祈り，雨乞いなどの思いを込めて演奏されてきた。打てば響くその音は，耳だけではなく全身に伝わり，集団で打てばさらに迫力を増す。本題材で取り上げる『龍神太鼓』は，豊作を願う雨乞いの太鼓で，「雨を降らせてくれ。」という願いが天に届くように打つものである。雷や雨を想像させるリズムのおもしろさ，地打ちにのって打つことによって得られる拍感，振りから体得できるフレーズ感などを全身で感じ取ることができる。また，腰や腕の使い方など，太鼓の基本動作を身につけるためにも適しており，１年生で取り組むのにふさわしい教材である。全身でリズムに反応して音楽を楽しむ時期だからこそ，多少難しいと思われるリズムも習得できるのではないかと考えた。

本時は，いくつかの基本的な打ち方を習得した子どもたちが，初めて『龍神太鼓』をビデオで鑑賞し，その中で何度も繰り返されるリズムと振りに挑戦する。「龍神太鼓」のリズムの特徴や，振りが表す意味を探り，雨乞いの願いを天に届けようという気持ちをこめて演奏することができるような授業を構成することにした。

（２）子どもと教師

本校音楽科では，新しい音楽と出会い，「型の模倣」「技のぬすみ」を基本とした習得過程からその音楽の特質に気づき，表現する活動を通してその音楽の魅力を捉えていくという流れで学習を展開している。１時間１時間の授業の中で，音楽とのかかわりから得た気づきをもとに，主体的に追究し表現していく児童・生徒の育成をねらいとしている。

本学級の児童は，入学当初はいろいろな動物の歌を身体表現をしながら歌い，鍵盤ハーモニカの学習では，伴奏なしでみんなで合わせて演奏することを取り入れてきた。また，ドレミ体操で全身で音に反応したり，ミュージック・ベルで友だちと息を合わせて演奏したりすることにも取り組んできた。７月頃からは，楽譜を見て似ているところや違うところをみつける活動も行っている。

本題材では，前時までに和太鼓の基本的な動作と打ち方を習得してきた。音と振りを鑑賞して口唱和を予想し，その後で口唱和とリズム譜をかいた図を提示するというように「聴いて模倣する」「見て模倣する」力を育てることを大切にしている。本時は，これまで習得したリズムや振りが『龍神太鼓』の中でどのように使われているのか，音楽のつくり（構造）に目を向けさせたい。そして，くり返し出てくるリズムの意味を考えることを通して，音楽に込められた思いや願いを捉える力を育てていく。そのようにして『龍神太鼓』を仕上げていく中で，子どもたちが音楽の様々なしかけを捉え，自分なりの豊かなイメージをもって演奏できるようにしていきたい。

（３）子どもと教材

本時は，「１つめの願いを天にとどけよう！」というめあてを掲げ，これまでに習得した「ドンドン名人」のリズムに３回連続の両手打ちを加えたフレーズを，地打ちに合わせて思いをこめて演奏す

ることをねらいとしている。初めて『龍神太鼓』を鑑賞するにあたっては，題名や由来を知らせずに音楽と振りをそのまま感じ取らせるようにしたい。今までに知っているリズムと振りを手がかりにして新しい部分に目を向けることで，何度もくり返されるところや変化していくところ，終わり方など，音楽の構造に気づかせる。イメージから音楽を捉えるのではなく，音楽的な特徴からイメージにつなげるようにしたいと考えている。ここでは，それぞれのリズムの後にくり返される「３回連続の両手打ち」に焦点を当て，どんな風に打ったらよいのかを探らせたい。天にとどくような音の出し方や振り（腕や上体の回し方，視線など）を工夫しながら，願いをこめて打つ喜びを味わわせたい。その際には，児童の様々な工夫を紹介しながら広げていき，演奏を通してイメージの共有化を図りたい。

一方，技能的な面でつまずいている児童には，直接かかわって支援することが大切である。振りとリズムが合わない児童には教師がいっしょに演奏したり，肩をたたいてリズムを示したりするなど，わかりやすい支援を心がけたい。待っている間に口唱和と素振りを練習するように促したり，思いが強すぎて地打ちと合わない児童には，「地打ちをよく聴くこと」「振りを大きくしてしっかり打つこと」を助言したい。場合によっては，録音した地打ちを用いて個々にかかわるようにしたい。

本時のふり返りでは，「今日のリズムが打てるようになったか」「地打ちと合わせることができたか」を視点にして４段階評価（マーク選択）をし，なぜそのマークなのかを書くようにさせたい。

３　題材の目標

・「龍神太鼓」の基本リズムと振りを習得し，地打ちに合わせてアンサンブルを楽しむ。
・雷の音や雨の音などのイメージを描き，雨乞いの願いをこめて演奏する。

４　学習計画（全９時間）

第１次　和太鼓との出会い（１時間）
第２次　ドンドン名人・ドーン名人・カッカ名人になろう（３時間）
第３次　「りゅうじんだいこ」に挑戦（４時間）　**本時１／４**
第４次　「りゅうじんだいこ」発表会をしよう（１時間）

５　本時の学習について

（１）本時の目標

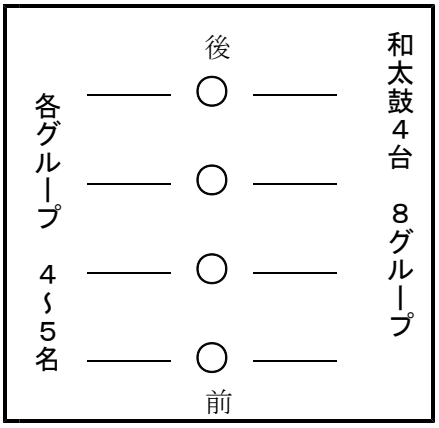
雨乞いの願いが天に届くような打ち方や振りを工夫しながら、地打ちにあわせて演奏する。

（２）期待される児童の様相

Ａ　できるだけ大きな振りで，地打ちに合わせて音を響かせながら演奏する。
Ｂ　振りをつけながら，地打ちに合わせて演奏する。
Ｃ　振りをつけながら演奏する。

（３）本時の展開（○教師の意図　◇全体への支援　◆個への支援）

学　習　活　動	教　師　の　支　援　・　意　図
１　「龍神太鼓」をビデオで鑑賞して気づいたことを話し合い，今日のめあてを確認する。 ・かっこいい　・だんだん速くなる ・今までにやったリズムがある ・同じ振りが何回も出てくる ・３人が交代しながら演奏する ・違う音が重なっていた ・すごい曲だなあ	◇龍神太鼓の由来や背景を知らせずに鑑賞させる。 ○音楽的な特徴や構造に目を向けさせたい。 ◇何度も同じリズムと振りの部分が出てくることを捉えやすいように，黒板に楽譜を提示する。 ◇音楽の構造や特徴を視覚的にも捉えさせた後，それらが「雨乞いの願い」を表していることを知らせる。 ◆地打ちに気づいた児童があれば，ここで取り上げる。 ◇本時に取り組むフレーズを知らせ，めあてを提示する。
１つめのねがいを天にとどけよう！	

2　演奏の仕方と振りを練習する。 ・口唱和と素振り ・地打ちに合わせて	○これまでの学習を生かして，どんな練習をしたらよいかに気づかせたい。 ◇まず，これまでと同様に口唱和を唱えながら素振りをすることを確認する。 ◇口唱和と素振りを地打ちに合わせることで,「龍神太鼓」の練習にスムーズに入れるようにする。 ◆願いのこもった振りの動き（大きく腕を回す・天を見上げる）をしている児童を紹介していく。
3　音の出し方と振りの動きを工夫しながら演奏する。  	○ここではまず，口唱和と素振りで練習したことが，実際に和太鼓でできるようになるための支援をしたい。 ◆地打ちにうまく合わない児童には，みんなで口唱和を唱えたり，録音した地打ちを用いて児童といっしょに打ったりして，地打ちと合った感覚を覚えさせる。 ◆両腕を回す動作に気をとられて,「ドーン」の音がしっかり打てない児童が多いと予想されるので，しっかり打てた児童を紹介し，どんな打ち方をしているのかをよく見るように促す。 ◇みんなが１回演奏したところで，もう１回ビデオを見せる。
共有課題：どうしたら，地打ちにうまく合わせることができるだろう ・地打ちをしっかり聴く　・口唱和を唱える ・合っている友だちの動きに合わせる **どんな打ち方をしたら，天にとどく音が出るのだろう** ・太鼓の真ん中を打つ　・腕を大きく振り下ろす ・最後のドーンを打った後，天を見上げる	
4　みんなで工夫したことを生かして，まとめの演奏をする。 ・地打ちに合わせるとみんなの音がパワーアップするね ・くり返しが何度もお願いしているみたいだね	○実際に演奏する中で,「龍神太鼓」の音楽のしかけが天に願いをとどけるために効果的な表現になっていることを捉えさせたい。 ◆◇４人が地打ちによく合っていたら，それが天にとどけるための重要なポイントであることをおさえる。 ◇「ドンドン名人」の２回のくり返しと「ドーン名人」の３回のくり返しによって，何度もお願いする感じが出ることをおさえる。
5　本時の学習のふり返りをワークシートに書く。	○今日のめあてがどのくらい達成できたかを４段階のマークで自己評価し，なぜそのマークを選んだのかを書くようにする。